

平成22年度

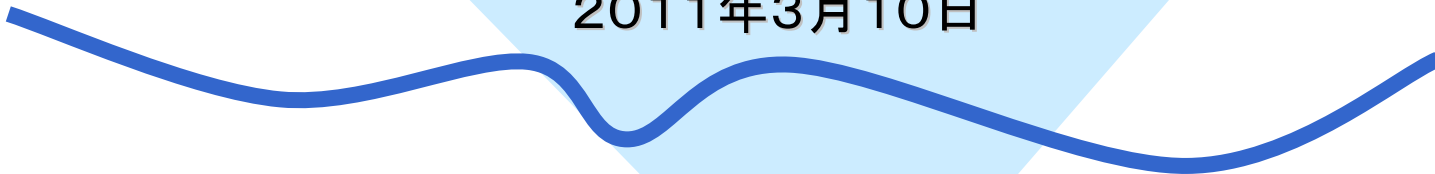
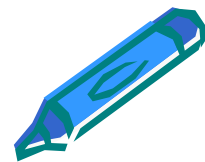
横浜市立病院等安全管理者会議

看護部会活動報告

済生会横浜市南部病院

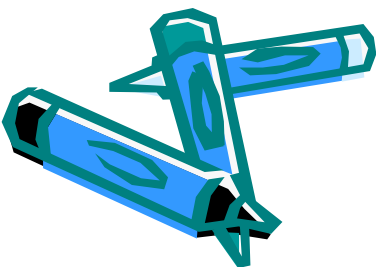
土橋 道子

2011年3月10日



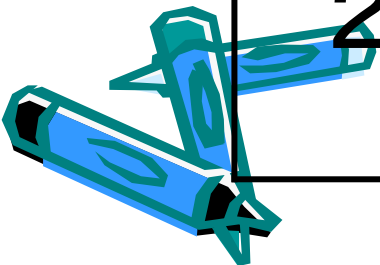
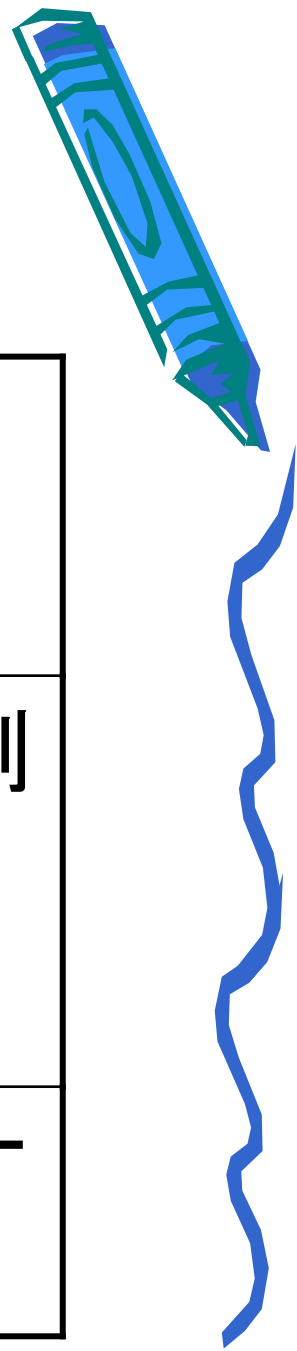
H22年度看護部会開催状況

- ・ 開催回数 : 3回/年
- ・ 看護部会メンバー : 13施設 15名
8月3日、11月4日、2月2日
- ・ 看護部会活動内容
 1. 毎回「テーマ」に沿って資料を持ち寄り意見交換
 2. 情報交換



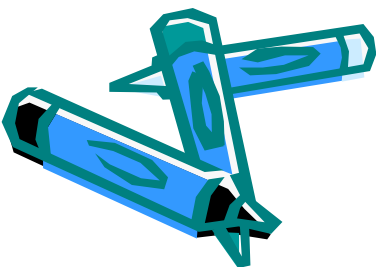
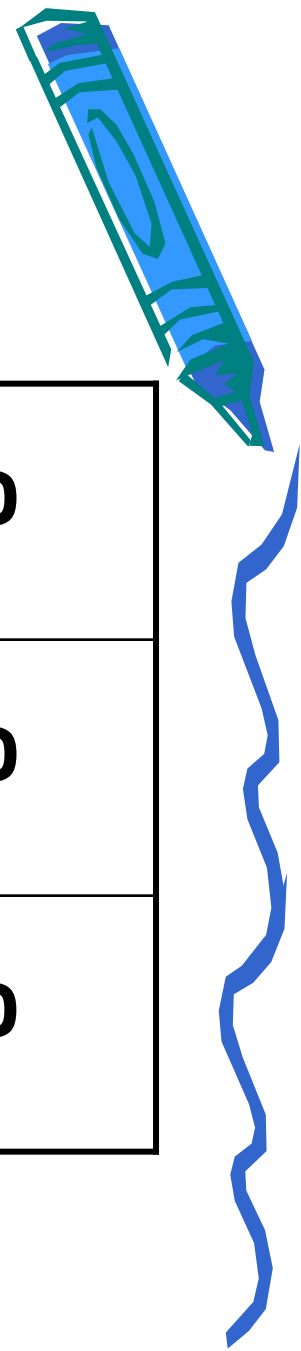
今年度
看護部会各月のテーマ

8月	医療安全研修企画 実施について
11月	医療安全管理の組織体制 問題点とその対策
2月	新採用者への医療安全オ リエンテーションについて

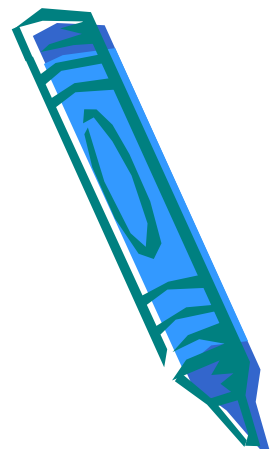


参加状况

8月	12名	80%
11月	9名	60%
2月	13名	87%

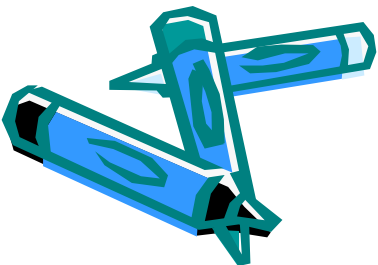


1. 医療安全研修について

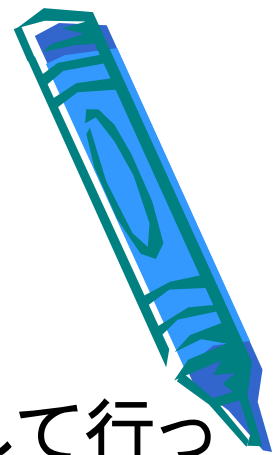


全職員が参加できる工夫

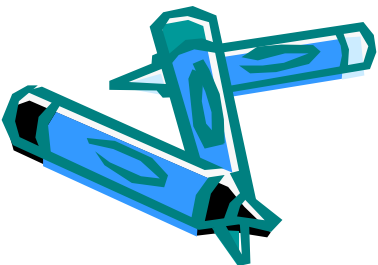
- ・ 医療安全研修と感染研修を組み合わせ、1回の研修で2つの研修を受講できるようにした。ポイント制にして、達成ポイントを設定し実施している。
- ・ 同じ研修内容を繰り返し5日間行っている。



研修内容に関して

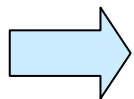


- 自分たちの取り組んできた内容を発表会として行っている。
- ランチョンセミナーを開催している。
- 1時間の内容でDVDを作成し、参加者が食事を持参して講堂で見ている。
- KYT・RCA分析を部署に入って行っている。
- 参加型研修としている。座談会形式、講師と交流を持つ方法を取り、個別相談にも応じている。



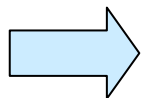
その他の意見

- ・ 研修は勤務扱いであるか？



一部勤務扱いとしている。

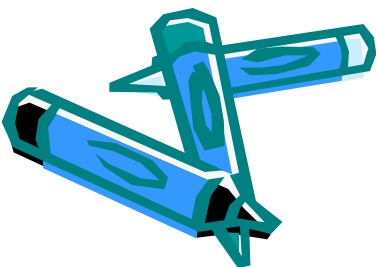
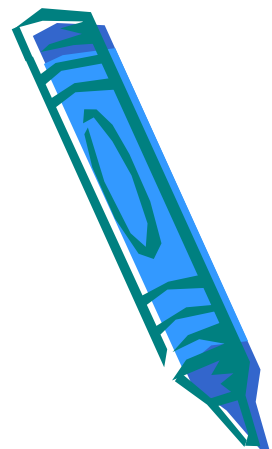
- ・ 安全研修の意義



職種によって反映できる内容が異なるので、全職種対象の集合研修はナンセンスではないか。各自が興味を持てる研修を選択できる企画が出来るとうい。

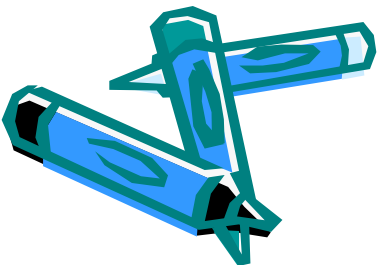
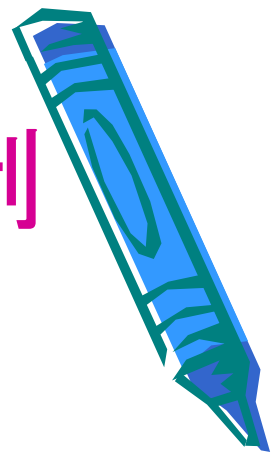
職員には、研修成果を数値等で見せていくとういのではないか。

(各職種の出席率、研修受講数とインシデントレポート報告件数の変化、アクシデント件数の減少など)



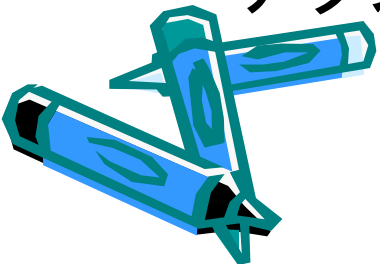
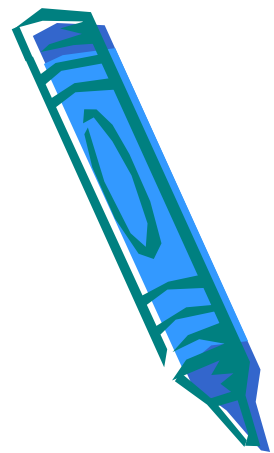
2.医療安全管理の組織体制

- 医療安全管理室として独立した機能
- 院長→統括医療安全管理者、医療安全専従
看護師→リスクマネジメント委員会→部会
→職員
- 構成要員：統括医療安全管理部長（医師）
専従看護師
薬剤師、検査技師、事務員（兼務）

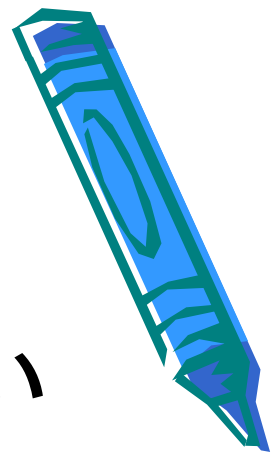


実務内容

- インシデント・アクシデントの収集と集計
- 再発防止策の立案、実施評価
- マニュアルの見直し、改訂
- 医療安全にかかる職員の啓発、教育研修
- 安全管理のための委員会の企画、運営、支援
- 医療安全パトロール、広報、周知活動
- 医療安全に関するコンサルテーション
- アクシデント発生時の対応支援



問題点と解決策



① 伝達事項が全職員に周知されない

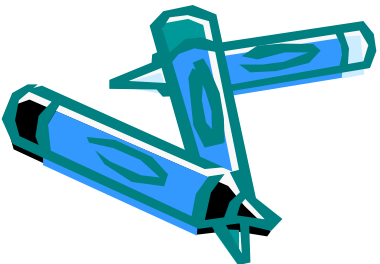
特に診療部に伝わらない。

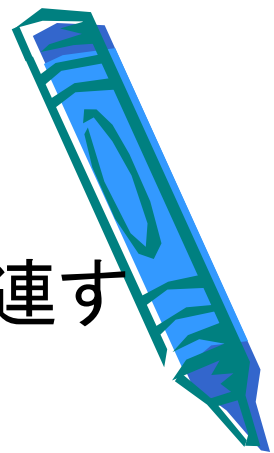
電子媒体を見ていない、ペーパーを配布しても見ない。

解決策

院長、診療部長などの協力を得て、繰り返し伝達する努力をしていく。

緊急情報は、所定の場所を決め見てもらう。



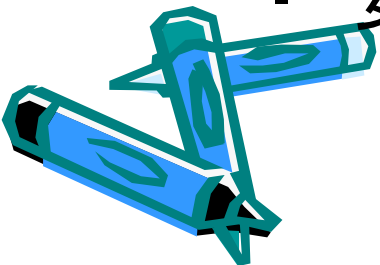


② 関連部署との横断的調整

- 問題点、改善策を検討していく過程で関連する委員会・部門との調整に難渋する。
- 院内暴力、クレーム、丸投げ報告等あらゆる内容が持ち込まれる。

解決策

- 医療安全管理室の組織における位置づけを確認する。
- 安全管理室の業務内容を整理していく。



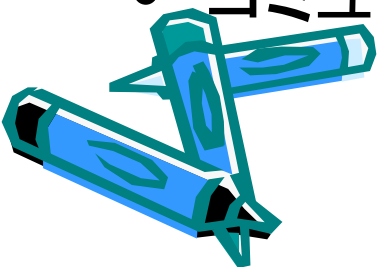
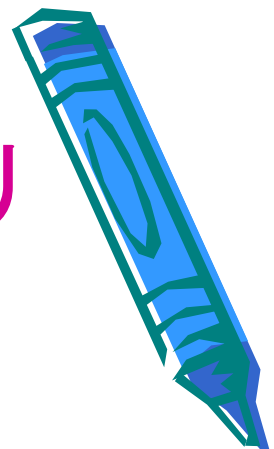
3. 新採用者への医療安全オリエンテーションについて

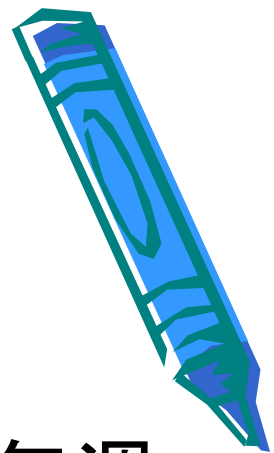
医療安全総論オリエンテーション

- 安全の基本、発生事例を用いての演習
- KYT、事故報告ルート、インシデントレポート入力方法、コミュニケーションの重要性など

各論研修（各部門と共同して）

- 看護技術、医療機器、救急蘇生
- コミュニケーションの重要性、指差し呼称の徹底



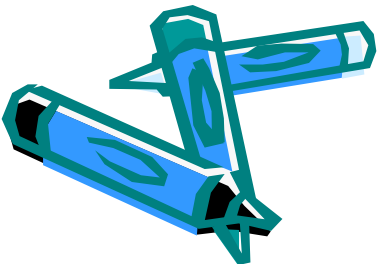


離職防止の集合研修について

- 3ヶ月間は、定例新採用者集合研修を毎週実施、研修日は定時で終業できるように配慮
- 4月中、定例曜日は定時終業している。

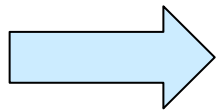


リフレッシュにつながっている。

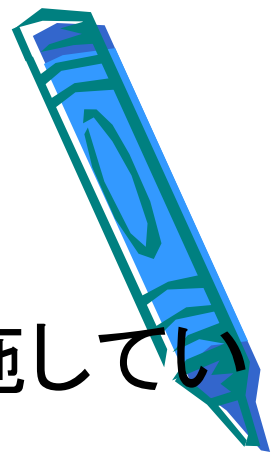
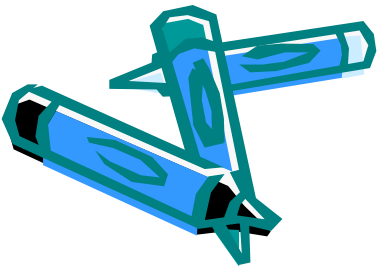


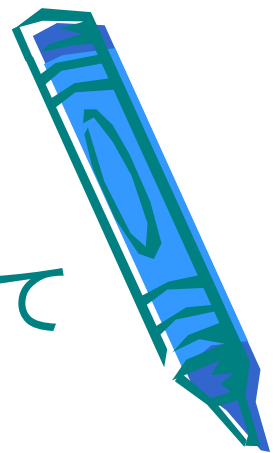
中途採用者について

- 中途採用者オリエンテーションを毎月実施している。
- 輸血に関して院内の方針を知らなかった。
- CV登録制を知らなかった。
- 院内手順をわからず実施してしまった。



- 中途採用者が多い施設は、特に安全オリエンテーションが必要
- 手順を遵守することが安全につながる！！

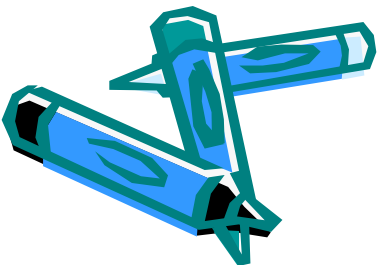




解決策の評価について

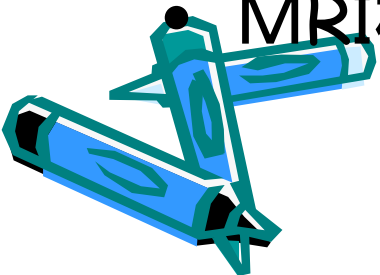
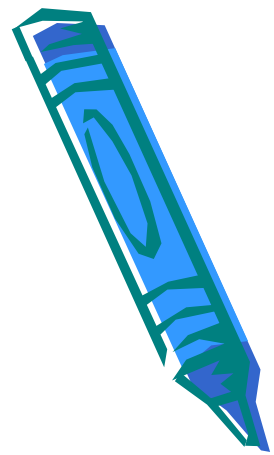
アクシデントへの再発防止策が実施されているか、どのように評価しているか

- 教育ラダーの安全管理目標を出し、各部署の担当者が教育に当たり安全管理者が到達度をチェックしている。
- 看護教育担当と医療安全担当の連携が大事。



情報交換した事項

- ワーファリンの休薬に関する基準
- ロヒプノールなどの使用基準
- 在宅人工呼吸器などの持ち込み機器に関する取り決めについて
- 多剤耐性アシネトバクターに関して
- 電子カルテを導入している各施設の現状について
- 入浴の安全に関すること
- 手術後体内異物残存防止のためのレントゲン撮影について
- MRI検査の安全管理

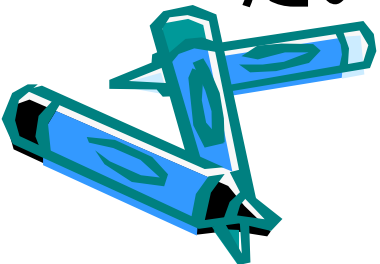
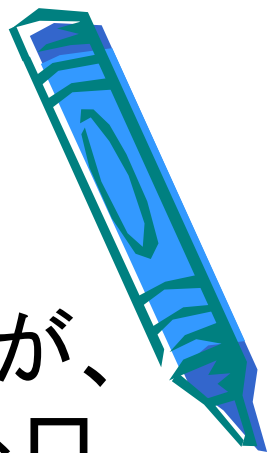


まとめ

限られた時間での「看護部会」でしたが、医療安全の現状、問題点、解決への糸口につながった。

施設の要である医療安全管理は、横断的活動が求められるなか、試行錯誤しながら行っている。

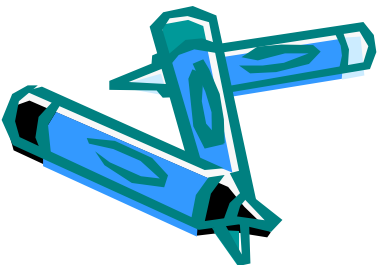
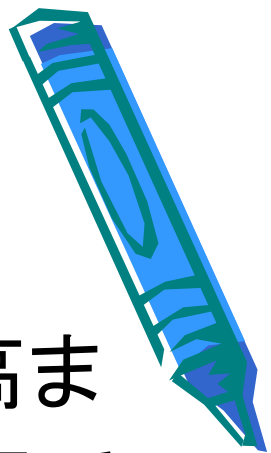
同じ思いを語れる仲間がいることで、今後も相互支援につながる活動をしていきたいと考える。



最後に

医療の高度化、患者の権利意識の高まりなどから、臨床現場では就職した時点で専門技術と知識が求められる。

これから、新人職員を迎えるにあたり、安全上必要な知識・技術、判断力、コミュニケーション能力を育成し、他部門と協力しながら医療安全の確保を図っていくことが医療安全担当者の課題である。



皆様、次年度もよろしく！

